

山口蓬春記念館20周年特別展Ⅲ

新日本画への 道すじ

—戦後の画業を中心に—



山口蓬春《鯉》昭和27年(1952) 個人蔵

平成24年 1月27日[金]—3月25日[日] 期間中一部展示替えを行います。

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) 休館日：毎週月曜日、3月21日(水)

入館料：一般／600円(高校生以下は無料) 団体割引／50円割引(20名以上の団体で1週間前までに予約した場合)
障害者割引／50円割引(同伴者1名を含む) 連携館割引／50円割引 ※連携館：葉山しおさい公園・博物館(大人券のみ)、神奈川県立近代美術館 葉山(一般券・学生券のみ)
年間入館券／1,500円(発行月から翌年の同月末日まで有効)

主催：山口蓬春記念館・公益財団法人JR東海生涯学習財団 後援：神奈川県教育委員会、葉山町教育委員会

山口蓬春記念館 〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2320 TEL:046-875-6094 FAX:046-875-6192 URL:<http://www.hoshun.jp/>

山口蓬春記念館
HOSHUN YAMAGUCHI MEMORIAL HALL

新日本画への道すじ ―戦後の画業を中心に―

戦後、終焉の地となる葉山に移り住んだ蓬春は、生来の洒脱な現代的感受性に加え、戦前より共感を覚えていた西欧の画家たちのモダンな感性を取り入れることで蓬春モダニズムと呼ばれる画風を呈し、新日本画創造への強い意志を表します。昭和28年(1953)に増築した新画室の飾り棚には愛蔵の古陶磁を並べ、また画室の窓から望む庭で遊ぶ小鳥の姿をとらえるなど、身近なモチーフによる静物画や花鳥画も数多く制作しています。

その後も日展日本画部の指導者として精力的に仕事をこなし美術界の重鎮となっていた蓬春は、昭和40年(1965)に

文化勲章を受章しますが、画壇の頂点を極めながらも蓬春の芸術に対する内省的な態度は揺らぐことはありませんでした。

テーマを絞り込んだ晩年の作は、岩絵具の清澄な色彩は深みを増し、洗練された構図と共に自身の老練さ、熟練さによる精神的な深まりを兼ね備えています。

本展では、蓬春の戦後の画業に焦点をあて、移りゆく時代や思想、美意識や感覚に応じて、新しい日本画の創造を最後まで探求し続けた蓬春の足跡を辿ります。



緞帳原画《杜》を制作中の蓬春 昭和39年(1964)



9



10



11



12



13



14



15



16



17

9. 《計志》 昭和25年(1950) 山口蓬春記念館蔵 [1/27—2/26のみ]
10. 《鯛》 昭和27年(1952) 個人蔵
11. 《望郷》小下絵 昭和28年(1953) 個人蔵
12. 《嘉靖方壺》 昭和32年(1957) 個人蔵
13. 《夏果図(オランダ皿の静物)》 昭和32年(1957) 松岡美術館蔵 [1/27—2/26のみ]
14. 《夏影》 昭和38年(1963) 山口蓬春記念館蔵 [2/28—3/25のみ]
15. 《枯山水(苔寺)》素描 昭和38年(1963) 山口蓬春記念館蔵 [2/28—3/25のみ]
16. 《清秋》 昭和43年(1968) 個人蔵
17. 《夏の花》 昭和45年(1970) 個人蔵

その他の展示予定作品

- ・《静物(遼三彩鉢と果物)》 昭和32年(1957) 山口蓬春記念館蔵 [1/27—2/26のみ]
- ・《夏果図》下図 昭和32年(1957) 神奈川県立近代美術館蔵 [1/27—2/26のみ]
- ・《白蓮木蓮》 昭和33年(1958) 山口蓬春記念館蔵 [2/28—3/25のみ]
- ・《宴》小下絵 昭和35年(1960) 神奈川県立近代美術館蔵 [2/28—3/25のみ]

※展示作品は都合により一部変更することがあります。



【交通案内】

JR横須賀線・湘南新宿ライン「逗子駅」より 京浜急行バス3番乗場 又は京浜急行線「新逗子駅」南口2番乗場より「海岸回り葉山行(逗12)」か「海岸回り葉山福祉文化会館行(逗11)」にて約18分「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車 徒歩2分

※専用駐車場はございません。車でおいで頂く場合は、周辺の駐車場をご利用下さいますようお願いいたします。

次回展示のご案内

山口蓬春記念館20周年特別展Ⅳ
—エピソード・山口蓬春と葉山—
平成24年3月30日(金)—5月27日(日)

山口蓬春記念館

HOSHUN YAMAGUCHI MEMORIAL HALL
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2320
TEL 046-875-6094 FAX 046-875-6192
URL <http://www.hoshun.jp/>